

## 介護現場の人手不足解消へ ミャンマーから来日

社会福祉法人柏友会（成田英世理事長）が外国人介護人材（特定技能）として、ミャンマーから6人を受け入れ、倉光市長に報告に訪れました。

これは、介護施設等で深刻化する人手不足に対応するため、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れるもので、同法人では令和5年12月にも2人の外国人介護人材を受け入れており、今回の入職で法人内としては8人の受け入れとなりました。

外国人介護人材のShoon Shoon Wai（シュン・シュン・ウェイ）さんは「職員の方がいつも笑顔で親切だし、毎日が楽しい。高山稲荷神社にも行ってみたい」と笑顔で話しました。



12/6  
市役所

やる気に満ちていた外国人介護人材の皆さん

## 中村乙さん 現代の名工に選出



12/11  
市役所

表彰状を手に喜ぶ中村さん

卓越した技能を持ち、その道で第一人者として目されている技能者を表彰する「現代の名工」に、中村板金・中村乙さん（柏桑野木田）が、県内で唯一選出され、倉光市長に報告に訪れました。

中村さんは、神社仏閣等伝統的建造物の屋根ふき、仕上げ技能に優れ、弘前城天守などの国重要文化財をはじめ県内重要文化財の屋根修復工事を多数手掛けています。さらに、弘前職業能力開発校では通算9年にわたり指導員を務め、後進の育成に尽力してきました。

倉光市長は「大変名誉なことで、ぜひ技を引き継ぐ人を育ててほしい」と話しました。

中村さんは「国に認められたのはうれしいの一言に尽きる。昔の技術を残しつつ、最新の技術を加えながら、興味がある人皆さんに伝えていきたい」と話しました。

## 木造高校生 ふるさと納税返礼品パッケージを制作

市ふるさと納税返礼品として木造高校の生徒がパッケージを制作した、神武食堂監修のシューマイが完成し、倉光市長に報告に訪れました。

このパッケージデザインは、同校総合学科流通ビジネス系列3年の田中悠雅さんと木村真彩さんが「総合的な探究の時間」を使い、地域の課題の一つである人口減少について、地域活性化や関係人口の拡大を目的に2人で制作したものです。

倉光市長は「食欲をそそるようなデザインで大変よくできている。この経験を後輩たちに伝えてほしい」と話しました。

田中さんと木村さんは「色やキャッチコピーを少しずつ改良して満足するデザインになった」と笑顔で話し、店主の神祥仁さんは「申し分ないデザインに仕上がった。うちの店を全国に知ってもらえる」と期待しました。

完成した神武食堂監修の「本気の焼売」は今後、市ふるさと納税返礼品に加わる予定です。



12/17  
市役所

（左2人目から）神さん、田中さん、木村さん、山本智也教頭

## 消防団出初式 士気高らかに

1/12  
市役所前



大淵消防団長を先頭に勇壮な分列行進で士気を高める

新春恒例の「つがる市消防団出初式」が1月12日、市役所周辺で開催されました。

出初式には56分団約900人の消防団員と55台の消防車両が参加。観覧者の倉光市長による服装点検を受けた団員らは、勇壮な分列行進を披露し、本年の活動に向けて士気を高めました。

続いて松の館で行われた式典では、倉光市長が「さまざまな事態に迅速・的確に対処できるよう日頃から災害への備えをお願いします」と団員らを激励。続いて大淵則昭消防団長が「今後起きる未曾有の大災害等に備えるべく、訓練を通じ、団員の技術力、組織力のさらなる強化を図っていく」と訓示を述べました。

また、出初式に先立ち、倉光市長と大淵消防団長ら消防団幹部が、三新田神社で今年一年の無火災を祈願しました。

## 全国大会での健闘を誓う

11月10日に開催された「県高等学校新人柔道大会兼第47回全国高等学校柔道選手権大会県予選」に出場した佐藤汰珠選手(木造高校2年)が男子73kg級、成田歌蓮選手(下山学園高校2年)が女子63kg級で共に優勝し、3月19日から開催される全国大会への切符を手にしました。

この日、選手ら4人が市役所を訪れ、大会の結果や今後の抱負について話しました。

佐藤選手は「柔道を当たり前に行っていることに感謝し、青森県代表として恥じない試合をしたい」、成田選手は「全国大会に出場するのが初めてなので、一つでも多く勝てるように頑張りたい」とそれぞれ抱負を語りました。

倉光市長は「母校の代表として、そして青森県の代表として、実力を発揮して頑張ってきてほしい」と激励しました。

1/17  
市役所



佐藤選手(左から2人目)と成田選手

## つがるの冬を体験 冬の移住体験ツアー開催

1/18  
つがる市内



雪かきを体験する参加者たち

1月17日から3日間にわたり、「冬の移住体験ツアー」が市内で行われました。

本ツアーは、移住者の増加を目的に市が主催したもので、今回は東京都と千葉県から4組が参加し、地域の暮らしや文化などを体験しました。

雪かきやりんご農家見学、先輩移住者との交流会などを通じて、冬のつがる市を体験した参加者からは「雪かきの大変さなど、雪国の生活を肌で感じる事ができてよかった」「食べ物がなんでもおいしかった」などの声が上がっていました。